

レンズ生産20%効率化

割れ抑制 富士ダイスが金型材

富士ダイスはガラストを使用せず、安定供給できる利点もある。レンズの生産効率を20%改善する金型材を開発した。熱による寸法の変化量をガラスと同程度の従来比2倍に引き上げ、プレス成形時に変化量の差で生じるレンズの割れを抑える。産出地が偏在するタングステンやコバル

たのはガラス成形用の

富士ダイスが開発した金型材「TRO5」。2023年内に本格投入し、まずは25年3月期に売上高1億円を目標とする。超硬合金の従来材料の同4・8割、流体を制御・分析する医療用のマイクロ流路チップの金型に活用できるとみている。熱による変化量は温

度上昇と膨張の割合を示す熱膨張係数を、600度C時に毎9・1℃とした。超硬合金の従来材料の同4・8割、流体を制御・分析する医療用のマイクロ流路チップの金型に活用できるとみている。熱による変化量は温



れが生じることがあった。また、レンズを金型から取り出しにくい課題もあった。鏡面性

が低いことがあった。また、レンズを金型から取り出しにくい課題もあった。鏡面性

新材料で製造したガラスレンズ向け金型（イメージ）を示す「Ra」は従来品と同程度の6ナノ（ナノは10億分の1）を確保した。

熱膨張係数の高い主成分を採用し、添加物の配合比率や製造条件を最適化した。超硬合金に使われるレアメタル（希少金属）は産出地が偏在するために調達リスクの問題がある。新しい金型材の

主成分は複数の国に産地があり、調達の課題が少なくとみている。